

下呂温泉の交流産業振興に関する
調査研究

報告書（概要版）

平成 18 年 3 月

財団法人 岐阜県産業経済振興センター

第1章 調査研究の概要

1 本調査研究の目的

日本三大名湯の1つである下呂温泉は、岐阜県の代表的な観光地の1つとして重要な地域である。しかし、観光客の旅行形態が団体旅行から個人旅行へと変化してきたことにより、宿泊者数はピーク時の約165万人(平成2年度)から約102万人(平成16年度)までに減少している。こうした状況の中、地元の旅館組合、観光協会、商工会等では、下呂温泉に観光客を誘致するための様々な取り組みを行ってきたが、まち全体として合意された地域の将来ビジョン(方向性)がはっきりしていないため、限定的な効果に留まっているものと考えられる。

そこで、次世代を担う地元関係者が共感する将来ビジョンを作成、共有することで、その統一したビジョンの実現に向けて地域が一体となった取り組みを行い、その結果、自律的な地域の発展につながることを目的として、地元が主体となり、地元が合意できる観光まちづくりのビジョン策定を支援する調査研究を行った。

2 調査研究体制

本調査研究は、地元旅館組合、観光協会、商工会等の青年部によるワークショップを開催し、アドバイザーの支援のもと、参加者自らが主体となって調査研究を行いビジョンをとりまとめた。なお、本報告書はワークショップでの議論を踏まえて、(財)岐阜県産業経済振興センターが作成した。

2-1 研究体制

<アドバイザー>

鈴木 誠 岐阜経済大学地域連携推進センター長・教授

<研究員>

堀 正則 (財)岐阜県産業経済振興センター 調査研究部長心得

長井 哲也 (財)岐阜県産業経済振興センター 調査研究部 主査

棚橋 典広 (財)岐阜県産業経済振興センター 調査研究部 主任

<ワークショップ参加者>

「健康保養温泉地づくり実行委員会」委員(下呂温泉旅館組合、下呂温泉観光協会、下呂市議会、下呂市役所、医療関係者、下呂商工会、農業関係者、下呂飲食業組合ほか)及び調査研究に関心のある地元関係者

2 - 2 ワークショップの開催

<第1回ワークショップ>

日 時：平成 17 年 6 月 28 日（火） 13:00～16:00
場 所：下呂温泉旅館会館 3 階 白鷺の間
内 容： アドバイザー講演：観光まちづくりの考え方
講師：鈴木 誠 アドバイザー
調査研究計画の説明、ワークショップ討議

<第2回ワークショップ>

日 時：平成 17 年 9 月 21 日（木） 13:30～16:30
場 所：下呂温泉旅館会館 4 階 薬師の間
内 容： 事例調査報告（研究員、アドバイザー）
ワークショップ討議

<第3回ワークショップ>

日 時：平成 17 年 11 月 7 日（月） 14:00～17:00
場 所：下呂温泉旅館会館 4 階 薬師の間
内 容： 下呂市総合計画（概要版）説明（下呂市役所）
ワークショップ討議

<第4回ワークショップ>

日 時：平成 17 年 12 月 26 日（月） 13:30～16:30
場 所：下呂温泉旅館会館 4 階 薬師の間
内 容： ワークショップ討議（グループ&全体討論）

<第5回ワークショップ>

日 時：平成 18 年 2 月 3 日（金） 15:00～18:00
場 所：下呂温泉旅館会館 4 階 薬師の間
内 容： 調査研究報告書（案）説明
ワークショップ討議（グループ&全体討論、まとめ）

第2章 下呂温泉の観光まちづくりビジョンと提言

1 下呂温泉の観光まちづくりビジョン

1 - 1 基本理念

『気づき』と『協働』によるおもてなしのまちづくり

下呂温泉の観光まちづくりを進める上で重要なことは、地域資源に気づき、地域の合意を得ながら、一人ひとりが関わっていくことである。

そこで、下呂温泉の観光まちづくりの考え方となる基本理念を、「『気づき』と『協働』によるおもてなしのまちづくり」とし、一人ひとりが下呂温泉の資源に気づき、下呂温泉の事業者や住民、行政などが知恵と力を結集して、おもてなしのまちづくりを行う。

(1) 地域資源とその活かし方

下呂温泉を含めた地域資源にはどんなものがあり、どう活かしていくべきかを考えるために、足元の資源に気づく啓蒙活動を行う。

(2) 下呂温泉の観光まちづくりへの関わり方

資源を有効活用した観光まちづくりに対して、下呂温泉の事業者や住民、行政の関わり方を検討する。

(3) まちづくり条例の検討

それらを下呂温泉以外の周辺地域（旧4町村）も含めた観光まちづくりへと進めるために、まちづくり条例を検討する。

1 - 2 目 標

健康保養と美容促進の温泉まち

下呂温泉の交流産業振興のためには、温泉という恵まれた資源を活かした観光まちづく

りが必要である。下呂温泉は大変歴史のある古い温泉で、草津温泉、有馬温泉と並んで日本三名泉に数えられる泉質の優れた温泉である。その効能はリューマチや神経痛、運動機能障害、疲労回復など健康回復・増進に効果があるほか、なめらかな肌触りといった美肌効果も高く、心身のリフレッシュや健康回復、美容促進に期待できる温泉地である。¹

そこで、下呂温泉の将来像となる観光まちづくりの目標を「健康保養と美容促進の温泉まち」とし、美容や健康づくりに優れた効果のある温泉を活かした温泉まちを目指す。また、下呂温泉以外の4地域（旧4町村）にもそれぞれ特色ある温泉施設があることから、それらを活かした観光まちづくりも考えていく。

2 下呂温泉の交流産業振興のための提言

2 - 1 観光まちづくりの展開方策

(1) 街のイメージづくり『雰囲気づくり』

「健康保養と美容促進の温泉まち」らしい雰囲気づくりが必要である。そこで、パブリックアートや湯けむり施設などにより下呂温泉の街のイメージづくりを展開し、統一したデザイン意識の共有を図る。また、それを徹底するため景観パトロールなどを実施する。

建物(景観)の統一

建物の様式がバラバラであり汚れも目立つことから、建物の色を下呂温泉のイメージカラーに統一する。

サイン(看板)の統一

街並みの看板の基準（色、形、サイズ、材質、場所、様式など）を統一し、温泉地の雰囲気に合った看板に統一する。また、わかりやすい地図や道案内、観光案内板、街路灯なども統一する。

下呂駅のイメージ改善

下呂温泉を訪れる観光客の玄関口であることから、駅前広場の温泉塔の活用(飾り付け)、JR地下道の整備（明るくきれいに）など下呂駅のイメージ改善を進める。

¹ 参考文献 / (社)日本観光協会「下呂地域観光地づくり推進プログラム」(2000年1月)

(2)清潔な街づくり

毎朝ゴミ袋が並ばないようにするためにゴミの収集方法の統一、清潔なトイレを増やすために旅館、ホテル、寮、商店のトイレの開放、地域における街の清掃など清潔な街づくりを進める。

(3)潤いのある街づくり『花と木』

坂と街並みに沿った花飾り、町全体の花や木の装飾、花飾りを利用した街作りなど「花と木」を利用した街作りを進める。また、今までのようなプランターでは限界であり、「花」の植え方も検討を進める。

(4)観光スポットづくり『名所づくり』

森八幡神社は「田の神祭り(2/14)」にちなんで『縁結び神社』、若宮神社は『芸伎神社』のほか、清水の出るところに茶店を設置し観光スポットづくり『名所づくり』を進める。

(5)温泉情緒ある街づくり

「足湯」の増設や「外湯」の新設のほか、JR下呂駅で三味線や太鼓の音を流したり、各ホテル、旅館の「のれん」がけや観光客への「浴衣歩き」の推奨、ガイドブックや絵手紙Tシャツの作成など温泉情緒ある街づくりを進める。

(6)食・遊『観る！歩く！食べる！』

「食べる」面からは、1人(1店舗)から特色ある店作りを始め(一度に全体が変わる必要はない)各商店に個性を持たせることで『食べ歩きのできる温泉街』づくりを進める。また、「遊ぶ」面からは、『屋台村』のほか『夜間(昼間)祭り広場』『街角コンサート』など楽しめる温泉街づくりを進める。

(7)自然の景観『川、谷、山』

飛騨川や阿多野川などの河川、河原、谷のほか、下呂駅から見た下呂富士の雪景色などを楽しむための遊歩道や散歩道を整備し、四季折々で楽しむ自然の景色づくりを進める。

(8)人づくり

湯の町案内人(ボランティアガイド)の拡充、駐在事務所の開設、観光客への声かけ運動のほか、人に優しい親切な街、市民全員が「案内人」など人づくりを進めるために、楽しいおもしろいおもてなしの心の勉強会を開催する。

2 - 2 観光まちづくりの推進体制

(1)「事業者や住民」の取組

短期的(1年後まで)に実行する取組

- ・ 景観パトロールの実施(街のイメージづくり『雰囲気づくり』)
- ・ 行政との協働によるゴミの収集方法の統一(清潔な街づくり)
- ・ 旅館、ホテル、寮、商店のトイレの開放(清潔な街づくり)
- ・ 地域における街の清掃(清潔な街づくり)
- ・ 「花」の植え方の検討(潤いのある街づくり『花と木』)
- ・ 旅館の「のれん」がけや観光客への「浴衣歩き」の推奨、ガイドブックの作成(温泉情緒ある街づくり)
- ・ 『屋台村』のほか『夜間(昼間)祭り広場』『街角コンサート』など楽しめる温泉街づくり(食・遊『観る!歩く!食べる!』)
- ・ 湯の町案内人(ボランティアガイド)の拡充(人づくり)
- ・ 観光客への声かけ運動(人づくり)
- ・ 楽しいおもしろいおもてなしの心の勉強会(人づくり)

中期的(3年後まで)に実行する取組

- ・ 街並みの看板の基準を統一/木の利用(街のイメージづくり『雰囲気づくり』)
- ・ わかりやすい地図や道案内、観光案内板、街路灯などの統一(街のイメージづくり『雰囲気づくり』)
- ・ 坂と街並みに沿った花飾り、町全体の花や木の装飾、花飾りを利用した街作り(潤いのある街づくり『花と木』)
- ・ 森八幡神社は『縁結び神社』、若宮神社は『芸伎神社』、清水の出るところに茶店を設置(観光スポットづくり『名所づくり』)
- ・ 1人(1店舗)から特色ある店作りを始める(食・遊『観る!歩く!食べる!』)

長期的(10年後まで)に実行する取組

- ・ 建物の色を下呂温泉のイメージカラーに統一(街のイメージづくり『雰囲気づくり』)

(2)「行政」への取組提案

短期的(1年後まで)に実行する取組

- ・ 駅前広場の温泉塔の飾り付け(街のイメージづくり『雰囲気づくり』)
- ・ JR地下道を明るくきれいに(街のイメージづくり『雰囲気づくり』)

- ・事業者や住民との協働によるゴミの収集方法の統一（清潔な街づくり）
- ・JR下呂駅で三味線や太鼓の音を流す（温泉情緒ある街づくり）
- ・絵手紙Tシャツの作成（温泉情緒ある街づくり）
- ・ボランティアガイドの駐在事務所の開設（人づくり）

中期的(3年後まで)に実行する取組

- ・『足湯』の増設や『外湯』の新設（温泉情緒ある街づくり）

長期的(10年後まで)に実行する取組

- ・遊歩道や散歩道を整備し、四季折々で楽しむ自然の景色づくり（自然の景観『川、谷、山』）

2 - 3 観光まちづくりに向けた今後の対応

観光客から高い支持を得ている下呂温泉では、今後は外部からの観光投資を導き出すための取組が求められている。また、事業者や住民、行政など下呂温泉に暮らす人すべてがその恩恵を受けられるように、観光まちづくりの推進による経済的な効果を下呂温泉に還元する仕組み（ルールや条例）づくりも必要である。この調査研究（ワークショップ）は、下呂温泉がそのような段階へ進むための第一歩であり、経済循環への第一歩である。

これから「健康保養と美容促進の温泉まち」を目指す下呂温泉では、交流産業振興のための提言に基づき、事業者や住民、行政ができることを実行するための活動を進めていく。そこでは医療機関（下呂温泉病院など）を活かすことも重要となってくる。そして、その活動に対して観光客からの評価を受け、問題がある場合には活動内容を見直して実行する。これを繰り返し実行することが、下呂温泉の観光まちづくりビジョンの実現につながる。

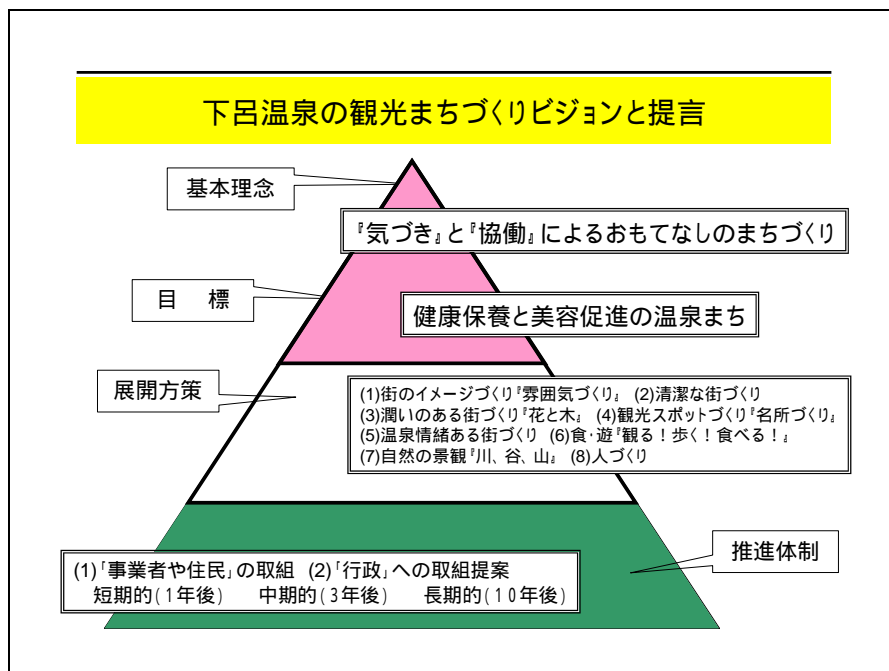
さらに、下呂温泉以外の4地域（旧4町村）の温泉施設も活かした観光まちづくりへと進めることも必要であり、下呂市全体の観光まちづくりビジョンの実現と経済循環へとつながることを期待している。

<アドバイザーからのコメント>

岐阜経済大学地域連携推進センター長・教授 鈴木 誠

下呂温泉には長い歴史があります。天然資源である温泉が、今も心身の疲労回復や病気のけがの治療に利用されるほど高い品質と名声を保ち続けているのは、ひとえに地元の人々の努力の賜です。この度の研究会は、この資源を利用して新たな誘客資源や誘客の体制、すなわち『温泉観光まちづくりの仕組み』を考えることを目的に取り組みました。幸い、

地元の観光関係者をはじめ、下呂市や飛騨地域振興局など多方面から大勢の方々のご協力を得て、現地調査とワークショップにより成果を生むことができました。今後は、研究会に参加された皆様が中心となり、この成果を活かして『癒しの郷』『国際健康保養地』下呂温泉のまちづくりを牽引下さることを期待します。私たちも、この成果を振り返りながら、温泉観光まちづくり活動の支援を惜しみなく続けたいと考えています。



図表1 下呂温泉の観光まちづくりビジョンと提言

実行主体 期限	事業者や住民	行政への提案
短期的 (1年後まで)	<ul style="list-style-type: none"> ・景観パトロールの実施(街のイメージづくり『雰囲気づくり』) ・行政との協働によるゴミの収集方法の統一(清潔な街づくり) ・旅館、ホテル、寮、商店のトイレの開放(清潔な街づくり) ・地域における街の清掃(清潔な街づくり) ・「花」の植え方の検討(潤いのある街づくり『花と木』) ・旅館の「のれん」がけや観光客への「浴衣歩き」の推奨、ガイドブックの作成(温泉情緒ある街づくり) ・『屋台村』のほか『夜間(昼間)祭り広場』『街角コンサート』など楽しめる温泉街づくり(食・遊『観る！歩く！食べる！』) ・湯の町案内人(ボランティアガイド)の拡充(人づくり) ・観光客への声かけ運動(人づくり) ・楽しいおもしろいおもてなしの心の勉強会(人づくり) 	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前広場の温泉塔の飾り付け(街のイメージづくり『雰囲気づくり』) ・JR地下道を明るくきれいに(街のイメージづくり『雰囲気づくり』) ・事業者や住民との協働によるゴミの収集方法の統一(清潔な街づくり) ・JR下呂駅で三味線や太鼓の音を流す(温泉情緒ある街づくり) ・絵手紙Tシャツの作成(温泉情緒ある街づくり) ・ボランティアガイドの駐在事務所の開設(人づくり)
中期的 (3年後まで)	<ul style="list-style-type: none"> ・街並みの看板の基準を統一(街のイメージづくり『雰囲気づくり』) ・わかりやすい地図や案内板、観光案内板、街路灯などの統一(街のイメージづくり『雰囲気づくり』) ・坂と街並みに沿った花飾り、町全体の花や木の装飾、花飾りを利用した街作り(潤いのある街づくり『花と木』) ・森八幡神社は『縁結び神社』、若宮神社は『芸伎神社』、清水の出る場所に茶店を設置(観光スポットづくり『名所づくり』) ・1人(1店舗)から特色ある店作りを始める(食・遊『観る！歩く！食べる！』) 	<ul style="list-style-type: none"> ・『足湯』の増設や『外湯』の新設(温泉情緒ある街づくり)
長期的 (10年後まで)	<ul style="list-style-type: none"> ・建物の色を下呂温泉のイメージカラーに統一(街のイメージづくり『雰囲気づくり』) 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊歩道や散歩道を整備し、四季折々で楽しむ自然の景観作り(自然の景観『川、谷、山』)

図表2 観光まちづくりの推進体制

本資料は調査研究報告書の概要版です。報告書本文は、(財)岐阜県産業経済振興センターのウェブサイトの「調査研究の報告 - 調査研究の結果」に掲載しております。
掲載アドレス：<http://www.gpc.pref.gifu.jp/cyousa/houkoku/houkoku.html>

下呂温泉の交流産業振興に関する調査研究

発行 財団法人 岐阜県産業経済振興センター

〒500-8384 岐阜市藪田南5丁目14番53号

岐阜県県民ふれあい会館10階

TEL：058-277-1085 FAX：058-277-1095

E-mail：chosa@gpc.pref.gifu.jp

URL：http://www.gpc.pref.gifu.jp

担当 調査研究部 主査 長井 哲也

発行日 平成18(2006)年3月

無許可で複製することを禁じます

この報告書は、岐阜県及び国からの補助金を
受けて作成しています

平成18年3月15日

財団法人岐阜県産業経済振興センター